

第3回佐倉教育ビジョン策定懇話会 会議録

日 時 令和元年 8 月 22 日(水) 18:30 ~ 20:00
場 所 佐倉市役所1号館3階会議室
出席者
委 員 〔敬称略・名簿順〕
大野 尊史 佐藤 和浩 腰地 みなこ 吉村 真理子
大塚 均 高橋 正彦 根本 裕代
教育次長 花島 英雄
事務局 教育総務課 課長 川島 淳一 主査 今川 孝夫
主査補 林 真理子 主任主事 平田 泰也
傍聴者 1名

○ 事務局から報告事項

- ・第2回会議において、「教育に関する意識調査」の回答率に関し、「企画政策部で実施している市民意識調査も前回に比べると低くなっている」と説明したが、再確認したところ、誤りであった。平成30年度と令和元年度を比較すると若干だが増加していたので、訂正させていただく。
- ・第1回会議録は、市のホームページで掲載済みである。

(1)市の総合計画について

事務局より、配布資料に基づき説明した。

《質問および意見》

(委員) 総合計画の内容は今後また変わっていくのか。

(事務局) 現在配布のものは、パブリックコメントが行われている素案であり、今後内容修正等が生じる可能性もある。

(委員) 資料1の12ページの施策「豊かな人間性を育む教育に取り組みます」の内容について、「自然、歴史、文化」という順番で表記されているが、2ページを見ると、これまでの計画は「歴史、自然、文化」の順番である。特に意図しているものがなければ、揃っている方がよい。

(事務局) 関係部署に確認の上、修正させていただく。

(委員) 12ページの施策「学力向上・学習の充実に取り組みます」の内容について、理科実験支援員は、10年ほど前と比べると縮小傾向にあるが最初に記載していいものなのか。

(委員) 11ページの成果指標の「学習状況調査」は、佐倉市独自のものと思われるが、文部科学省で行っている調査もあるので、文言の誤解をされないようにしたい。11ページの現状と課題では、「学習状況調査」、12ページでは、「佐倉市学習状況調査」と記載されている。

(事務局) 修正できるよう関係部署と調整していく。

(委員) 11ページの成果指標の「学習状況調査における平均正答率」の目標値について、活用力が現状値と比べて下がっているが、上げることはできないのか。

(事務局) 関係部署によると、記述力を調査できるように問題の難易度を上げるイメージをしており、そのような中で70%維持することを想定している。

(委員) 人格の形成で最も大事なものは乳児期、幼児期の6年間であると思っているが、資料を見ると乳幼児教育についての記載がない。佐倉市の「人づくり」ということなら、4章の部分に乳幼児教育についての記載を入れるべきである。

(2)「教育ビジョンの策定にあたって」～「教育ビジョンの体系」について

事務局より、配布資料に基づき説明した。

《質問および意見》

(委員) 資料2の10ページ「学校教育における施策の現在の満足度・今後の重要度」について、「地域から信頼される教育の取組」の満足度が低い。自分の住んでいる学区での学校の評判や実感と違うように感じたが、保護者や学校関係者の評価だけでなく、地域住民の評価は重要であるし、あたってはいる。どこが悪いと地域住民の方は評価しないのか、可能であれば調べてほしい。

(事務局) 参考までだが、「地域から信頼される教育の取組」について、市民の回答では、満足度は0ポイントとなっているが、小学校保護者では0.6ポイント、中学校保護者では、0.7ポイント程度となっている。

(委員) 一般市民の方は答えにくい質問項目なのでは。例えば、町内会の回覧板に学校のお便りを掲載しているが、情報発信をより強化して一般の方に理解していただくことも重要である。

(委員) 学校の保護者は、学力の向上等で信頼度の評価が高いが、地域は、あいさつや礼儀で評価していると思う。評価の観点が変わってくるので、説明があった方がわかりやすい。

(委員) 「人づくり」という観点からすれば、あいさつ、礼儀の方が大事である。調査では、関係者以外の項目を大事にしていきたい。

(3) 基本理念、めざすべき佐倉市民像について

事務局より、配布資料に基づき説明した。

《質問および意見》

(委員) 資料3の基本理念は案Cが良い。キャッチフレーズ的で、「輝く」という言葉も良い。

資料4の市民像では一番上の案が良いが、案3の(4)「夢をもって」という単語が明るい将来につながる感じがして良いので、どこかに「夢」という言葉を入れられると良い。

(委員) 基本理念について、今後子どもに何を教えていきたいかと考えたときに、「学ぶ」や、文化等を「受け継ぐ」、そしてそれを「創造する」ということが求められると思う。案4の前半の言葉に加えて、後半部分を未来につなげていく言葉や、佐倉を織りなす人づくり等、「人づくり」に関する言葉を踏まえるのもいいと思う。

(委員) 基本理念について、現行のものは、「市民をめざす」となっているが、学校教育に軸を置いていると思うので、新しい基本理念は、学校教育と社会教育が融合するような形で表現した方が、市民にとってわかりやすいと思う。

(委員) 佐倉市に住んでいる人は、地元にあこがれを持って住んでいる人ばかりでない。また、住んでいる地域等によって価値観も異なる状況で、市民像として一つの目標に入れられるのだろうか。

(委員) 市としてどのような方向にしていきたいかの方向性であるため、すべての市民にあてはまる市民像は困難である。

(委員) 基本理念について、案Cは短いがインパクトがあり頭に残りやすく良いと思う。「輝く」という言葉の込めた思いも良い。

(委員) 基本理念は、キャッチフレーズ的な方がわかりやすいし、心に響きやすい。市民像については、佐倉は学ばば学ぶほどおもしろいことがわかるし、まさしく「歴史の息づくまち佐倉」であると感じている。最近、外国人観光客を多く目にすることもあり、小学生の外国語授業の導入等、世の中のトレンドである「国際化」はキーワードとしてはずしてはいけないし、それが自然に定着するような市であってほしい。

(委員) 小学校の保護者からは、子どもたちは学校で佐倉学を学ぶが、保護者は取り残されてしまっているため、家庭教育学級等で学習をしたいという意見が多かった。地域への愛着は徐々に高まってきていると感じた。また、市の教育センターで家庭教育の調査を実施した時に、佐倉市民は、全国の調査結果に比べて、意識が高いことが

わかった。市民性の育成を支援することが大事だと思う。

生涯学習は、意図的、計画的に行えないところはあるが、学ぶ機会や情報提供をする中で、自らを変えていくことが可能だと思う。

(委員) 基本理念は、文章が長いと達成目標になってしまい、ビジョンの「描く」という観点からは遠ざかってしまう。基本理念は抽象的でも、イメージが持てるようなものが良いと思う。市民像の案について、佐倉は「歴史」が大きいため、「文化」という文言に含めるか、「歴史」と入れるのかは検討した方がよい。

(委員) 市民像があるということを市民に認知されていないのではと感じる。

(4)基本方針について

事務局より、配布資料に基づき説明した。

《質問および意見》

(委員) 資料5の案3の(3)「生涯にわたる学びを支援し、人権・平和教育を推進します」は、前後でイメージの異なるものが一緒にしてあり、因果関係を明確に示しているわけではない。人権・平和教育は学校教育であるので、文言を整理した方がよい。

(委員) 案1の(1)の内容について、「地域の教育拠点を形成し、家庭や地域の教育力の向上を目指します」は、場を設定することが成果につながるよう書かれているが、場を設定しただけでは成果につながらないと思う。どのような場を設定するか、いろんな工夫があって成果となる。

(委員) 案1の(2)の内容は、従来の学習指導要領にあてはまるものとなっているが、新学習指導要領では、これからの教育を目指していく視点として、「学び」を変えていくことが明記されている。アクティブラーニングや協働することによってコミュニケーション能力や人間関係を構築していく力が身につくことが明記されており、その意図を汲んでいくことが大事である。

(委員) 案2については、章立てのところからどの内容を入れるのか整理が必要かもしれない。

(5)その他

今回いただいた意見は、内容を踏まえて事務局で再検討する。

次回は、基本方針(案)の提示と、施策の方向性のイメージ案を提示する。